



西中学校だより 5月号

グローバル化に対応する人材育成 ～入学式・始業式式辞から～

校長 角屋 房男

「若者は未来の宝なり。内なる声を発せよ。」

NHKの大河ドラマ「花燃ゆ」に登場する吉田松陰は、幕末から明治にかけて活躍した久坂玄瑞、高杉晋作、伊藤博文、山縣有朋などの若者たちの思想に大きな影響を与えた人物です。当時の日本は、長州藩出身の若者だけでなく、多くの若者の活動により、激動の時代を迎えようとしていました。

時代を同じくして、羽生市出身の実業家である清水卯三郎は、38歳の時に、江戸幕府の使節団に随行し、パリの万国博覧会に日本人の商人として、初めて参加しました。日本は幕末の混乱を迎え、この使節団に手を挙げるものは少なく、唯一人卯三郎だけが手を挙げたのです。

卯三郎は、羽生の造り酒屋（現在の中央2丁目）の三男として生まれ、子どもの頃から蘭学を学び、異人相手に大豆の取引をしていたことから、英語の必要性を強く感じ、英語も学びました。薩長戦争の時には、イギリスの軍艦に乗り込み、イギリス側の通訳として和平に力を注ぎ、イギリスの攻撃から、薩摩藩を救ったのでした。

卯三郎は、万国博覧会でヨーロッパの技術の高さに、驚きと感動を味わいました。そして、帰国後、東京浅草で、海外の書物や印刷機、歯科器材の輸入を扱う貿易商として活躍しました。明治政府へは、自分の意見を申し立てる建白書を提出し、西洋の機械を見習い、技術革新の必要性と日本人自らの手でその機械を作り、ヨーロッパの機械や技術を追い越すことの必要性を訴えました。

ヨーロッパの機械やその技術は、卯三郎の挑戦意欲に火をつけたわけです。そして、卯三郎の挑戦は、機械技術の進歩や日本の近代産業の発展へとつながっていきました。

卯三郎が、子どもの頃から学んだ蘭学や英語は、挑戦するための基礎であり、卯三郎自身が一回りも二回りも大きく成長できたのは、その蘭学や英語を自分のよさとしてさらに伸ばしたからです。

「若者は未来の宝なり。内なる声を発せよ。」

若者、つまり生徒の皆さんは、未来の宝となるために、元となるものをしっかりと身に付けることです。自ら考え判断し、自分の考えを発表する。仲間と協力して頑張る。心身ともに健康な生活が送れる。このことを日々繰り返し、そして自分のよさを伸ばすことです。

各教科の基礎的・基本的な知識や技能の習得だけでは、グローバル社会の流れに乗りきれません。やはり、子どもが習得した知識や技能を元に、互いに協力（協働）し、新たなものを創造するような学びを経験することが重要です。それが、「活用し、思考力・判断力・表現力等を育成する」ための学習過程につながっていきます。



新たなスタート 4月の学校行事

4月8日（水）入学式・始業式が行われました。新たに163名の1年生を迎え、2年生180名、3年生171名、全校生徒514名でスタートしました。新たな気持ちで、夢や希望に向かって、何事にも全力でがんばりましょう。

入学式・始業式



新入生歓迎会



新入生歓迎会・部活紹介



避難訓練



離任式



土曜PTA



5月の行事予定

日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
1	金	月曜日課	17	日	
2	土		18	月	4時間授業 教育実習開始～6/5 家庭読書の日
3	日	憲法記念日	19	火	体育大会学年練習 1年①② 2年③④ 3年⑤⑥ 脊柱即湾検診予備日
4	月	みどりの日	20	水	内科検診 2年生13:30～
5	火	こどもの日	21	木	専門委員会
6	水	休日	22	金	
7	木		23	土	
8	金	学校1日公開日 公開授業⑤ PTA総会 部活動保護者会	24	日	
9	土		25	月	
10	日		26	火	体育大会予行①②③ 学年練習1年④ 2年⑥ 3年⑤
11	月	体育大会全体練習⑤	27	水	
12	火	全校朝会、登校指導日	28	木	
13	水	修学旅行 月例費引き落とし日	29	金	体育大会準備
14	木	修学旅行	30	土	体育大会
15	金	修学旅行	31	日	
16	土				

